

三ツ沢 水で苦勞した話

市の北部地域の人々は、水道ができる以前、水が少なく大変な苦勞をしましたが、三ツ沢地区を流れる滝川には、豊かな湧き水があり、周辺の人々も汲みに来しました。

今回は、水の苦勞話を三ツ沢にお住まいの遠藤直治さんと渋谷国男さんに教えていただきました。

水量の減った湧き水

滝川は今でこそ水量が減りましたが、昔は湧き水で多くの水量がありました。中でも三ツ沢地区には、勢いよく湧き出すところがあ
り、人々はそこで、食事の支度や洗濯、水遊

この上に水神様があった



昭和六十一年二月五日号

びをしました。

生活水の少なかつた、間門・鵜無ヶ淵・大
淵狭の原の一部の人たちもおけを牛車に積ん
では、汲みに来ました。

大正十二年の関東大震災のことです。

地殻変動により水脈が変わつたのか湧き水
が急に細くなりました。困つた地元の人たち
は、豪農の家にあつた井戸を借りましたが、
水は足りません。

水の大切さを改めて知つた人々は湧き出し
口に近くに水神様を設けました。そして、そ
の南側に井戸を掘ると豊富な水が出、戦後、
上水道が引かれるまで、簡易水道の水源とし
て利用されました。

水神様は、残念ながら昭和五十一年の七夕
豪雨で流されたままになっています。遠藤さ



んと苅谷さんは、「自然が残されているこの一
帯に遊歩道なんかできるといいね。川を汚す
人がいるのは残念です」と話っていました。